

文系(経済学)教育における 情報リテラシー教育授業モデル案の例

本協会情報教育研究委員会分野別情報教育分科会委員
見島 完二 (名古屋学院大学経済学部教授教務部長)

1. はじめに

文系での授業モデル案は、経済学としていますが社会科学分野で応用可能なテーマです。大学周辺の課題発見と解決策の提案として、地域の課題を扱います。COC参加校は実施しやすいと思います。

2. 授業概要

実際のまち歩きから生活者(学生)目線で地域の課題を発見します。また、情報通信技術を活用して自治体などに関する知識やデータを収集し、それらについての理解を深めます。学修は数名でチームを構成して実施します。なお、対象学年は1年生、授業回数は90分授業3回を想定しています。

3. 授業の到達目標

以下のような3つの到達目標を設定します。

- ・ 地域の問題解決のために社会科学の知識を必要とする課題に対して、問題発見・解決の枠組みに基づき具体的な解決方針を決定し、立案した計画を遂行することができる(目標A2)
- ・ 調査内容に適した情報源を複数選択し、それらを比較・検討することによって情報の信頼性や正確性を判断することができる(目標B1)
- ・ 様々な視点をもって課題の発見にチーム活動を通じて取り組み、合理的な提案を行うことができる(目標A3)。

4. 学修活動の詳細と対応する到達目標

	授業内容・学修活動	到達目標
1	<p>大学周辺の地域課題を「まち歩き」で探します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標：これからの学修内容(問題発見・解決)が理解できます。画像データの基本が理解できます。 ・ 大学周辺の問題発見・解決の枠組みに基づいて、具体的な調査内容・調査方法を決定します。 ・ スマートフォンでマップやカメラ・グループウェアなどの情報通信手段を適宜活用します。 ・ 教室でコース確認などまち歩きでの留意事項を事前説明します。 ・ 個人情報に配慮し撮影します。(情報倫理の説明) 	B2 A1
	<p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4名一組のチームを決定：アイスブレイク後、チーム名と注目すべき点を決定 ・ 周辺マップでまち歩きコースを事前にGoogle mapsなどで確認 ・ 実際にコースを歩きながら(50分)、スマートフォンで現場の写真撮影 ・ 教室に戻り、写真の確認とチーム内で共有：LMS活用、画像データの処理チームごとに調査内容、調査方法、調査対象などを議論して作業 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームで決定した課題について調査 	
2	<p>チームで発見した課題をまとめ、データを活用しながらスライドを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標：チーム内で発見した課題に関する知識を深め、関連デ 	

	<ul style="list-style-type: none"> ータを収集し、解決策に近づくことができます。 ・ チームとして扱う課題をまとめ、調査からプレゼン準備までの計画を立案します。 ・ 信頼性、正確性、専門性に優れたデータベースの存在を認識し、それらの基本的な使用方法を理解します。 ・ ネットからデータを収集し、加工・グラフ作成・スライド作成ができ、チーム内でファイルを共有します。 	A2 B1
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 撮影画像ファイルを確認し、課題に関する周辺知識およびデータを収集 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム毎にホワイトボードや付箋などを利用し意見を集約 ・ 関連ホームページとデータベースで現状および課題を詳細に調査 ・ 関連データを収集(官公庁ホームページ)し、表計算ソフトで適切なグラフを描画 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンソフトでスライドを作成 ・ クラウドにあるファイルを更新 	
3	<p>課題の発表と内容を相互にチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標：効果的な発表に向けてチームで十分な準備ができます。改善へ向けた内容の指摘や建設的な提案ができます。 ・ リハーサルやスライドショーに関わる詳細な機能をチームで確認します。 ・ プレゼンソフトによる発表で周辺機器の基本的操作を理解します。 ・ グラフの元データおよび出所などの引用元を明示します。 ・ 他チームの内容や些末なミスを含めて相互に指摘します。 	B2 A3
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表ファイルをLMSにアップし、チーム内で事前にチェックし完成 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームごとにプレゼンソフトで発表・スマートフォンで発表を収録(発表15分) ・ 発表内容に関して全員で指摘(5分) ・ 意見を検討し、チームで修正編集 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で指摘された内容を加筆・修正 	

5. 評価

授業の評価は、①課題調査40点、②その他の課題60点、の内訳で採点し、合計点60点以上を合格とします。上記3週分の課題実習に関する成果は①で扱い、①の採点はルーブリックに基づきます。問題発見力・課題解決力・情報活用力・チームワーク力を中心に評価します。

6. おわりに

本授業モデルは本学のCOC事業で実践している「まちづくり提言コンペ」を題材にして作成しました。大学周辺という身近な課題なので、多くの学問分野で活用できると思います。また、対象学年を上級生にすれば、経済学で扱う分析ツールが解決策に応用できます。